

SDGs 講演会 オンライン

気候変動と格差 ：アジア各地の現場から

参加費 無料
申込 受付中
9/8(金) 13時締切

開催日 2023年9月9日(土) 13時00分～15時00分



講師 東京大学東洋文化研究所
新世代アジア研究部門
教授 佐藤 仁先生

「持続可能性」という標語が日本社会で飛び交うようになって久しくなりました。ですが、私たちが何を持続させ、何の持続を諦めるべきかは必ずしも明確ではありません。この問いかけには、それぞれ個別の来歴をもった現場から発想しなければ答えられません。SDGsのようにグローバルに定義された課題を現場に落とすのではなく、現場から問題を捉え直そうとしたとき、そこにはどのような原理を見通すことができるでしょうか。

この講演では、SDGsという言葉も、国連の存在すら知らない人々が、開発や環境保護といった「上からの」政策に翻弄される姿を描き、私たちの思考のあるべき方向性を「下から」の眼差して検討します。

申込方法

受講希望の方は、『かわさき市民アカデミーホームページ』からお申込みください。

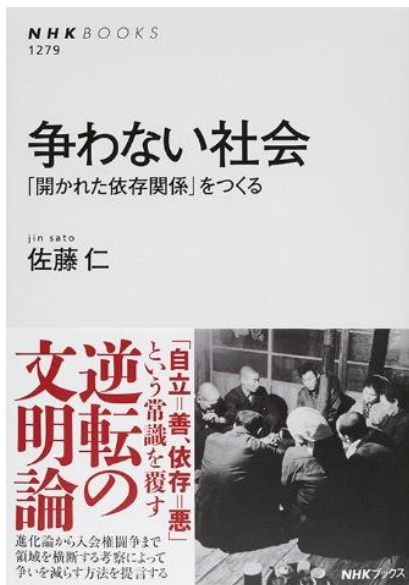
問い合わせ先 かわさき市民アカデミーSDGs講演会実行委員会

住所：川崎市中原区今井南町 28-41 川崎市生涯学習プラザ 3階

電話：044-733-5590(平日 10時～16時) FAX：044-722-5761



先生の著書のご紹介



NHKBOOKS

発売日 2023年5月25日 1,870円

争わない社会
「開かれた依存関係」をつくる

佐藤 仁

科学技術がどれだけ進歩して、人類の知の総量がどれだけ増しても、人間同士の争いはなくならないようです。かつての争いは貧しさの中で生じていました。いまは、豊かな者同士も争う世界になっています。いったん争いが大きくなると、それを止める知恵を私たちは持ち合わせていません。人間社会から争いを根絶することはできないとしても、その暴力的なエスカレートを予防する工夫はないのでしょうか。

本書は、「自立」や「競争」を強調する近代化の過程ですっかり弱体化した「中間集団」を育むことが争いの予防に役立つという仮説を提示します。中間集団は、国家の「出先」になることもあります。逆に、人々の連帯の結節点として権力に抵抗したり、異議申し立てをしたりする母体にもなります。争いがエスカレートしてしまうのは、このような中間集団が機能せず、権力を支える人々の依存関係が国家と個人に二極化してしまっているからです。国家と個人の間で中間集団の層を厚くし、依存先の選択肢を増やすことによって、支配に抗うことのできるような依存関係を構築できるのではないのでしょうか。

従来型の経済発展に対する反省から生まれたSDGsは「誰一人取り残さない」と言いながら、何から取り残さないかについて語っていません。依存先を失った人々は脆弱で、孤立しがちです。いまこそ、困ったときに頼り合うことができる「開かれた依存関係」を作り直すべきと考えます。本書は、近代化の過程で悪者扱いされてきた「依存」の価値を再発見し、争いの根源にある「分ける」発想を乗り越えようとする試みでもあります。

東京大学東洋文化研究所
佐藤仁研究室 HP より